

# 学まちコラボ事業

学まちコラボ事業は平成16年度から実施しており、今年度で11年目を迎えました。振り返ればこれまでに100を超える取組を採択し、その活動を応援してきました。中には継続した取組も増え、その取組内容は回を重ねるごとに充実し、地域に根付いた活動となっています。

本事業への申請がきっかけとなって、ますます地域が活性化し、魅力あふれる京都のまちになることを願い、事業を実施していきます。



平成25年度

最優秀事業  
実施団体

むらさきっず (佛教大学)

学まちコラボ事業では、平成25年度から、報告会において最も優秀な事業を選び、実施団体を表彰しています。25年度の実賞は佛教大学むらさきっずのみなさんでした。むらさきっずは京都市北区紫野学区の一人暮らしの高齢者組織「パープルフレンズ」とともに、「防災かぞえ歌」や「防災グッズ」を制作し、さまざまな地域や施設で防災啓発運動を展開。地域住民の防災意識の向上を目指す活動を継続的に実施されていることが評価されました。



～高齢者のためのさまざまな支援活動を継続的に展開～

平成26年度は、「京都市北区民まちづくり提案支援事業」及び「京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金」の採択を受けた紫野カルチャー亭運営協議会（紫野学区）とともに、「まちを元気にする」楽曲・CDの制作、活動の具体的な内容をまとめた冊子の作成、「学区住民がつながる場」の提供を目的とした月刊新聞（パープル通信）の制作など、さらなる支援活動を実施されました。

むらさきっずでは、高齢者の力や可能性を感じながら、一人暮らしの高齢者の方がより生き活きと地域で自分らしく暮らすためにはどうすれば良いのかを地域住民とともに考え、日々取り組まれています。



紫野まつり パープルフレンズ出演の様子



月刊新聞：パープル通信



「カフェ紫野」でのハロウィンパーティ

大学・学生と地域がコラボして京都のまちを活性化！！

# 学まちコラボ 平成26年度活動報告



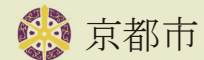
(公財) 大学コンソーシアム京都 学まちコラボ事業担当  
TEL : 075-353-9130 / FAX : 075-353-9101  
(※日・月を除く 9:00~17:00)  
Mail : gakumachi-admin-ml@consortium.or.jp  
〒600-8216  
京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

検索

京都市総合企画局総合政策室 (大学政策担当)  
TEL : 075-222-3103 / FAX : 075-212-2902  
発行 : 京都市総合企画局総合政策室  
京都市印刷物 第263252号 平成27年3月



この印刷物が不要になれば  
「雑がみ」として古紙回収等へ！



## 🌸 学まちコラボって??

大学・学生と京都市で暮らす人々との連携は、大学内だけでは得難い貴重な学びを創出します。

京都市と大学コンソーシアム京都では、魅力溢れる京都のまちづくりに貢献しながら得られる大学・学生の学びを充実させるため、大学・学生と地域が目的を共有し一体となって実施する、京都のまちづくりや地域活性化に資する企画・事業を広く募集し、認定した事業に支援金（最大30万円）を交付して取組を応援する学まちコラボ事業を実施しています。

大学・学生 × 地域  
= 地域活性化 !!



- 4月～5月 募集
- 6月 審査 (書類・プレゼンテーション)
- 7月 認定式 事業実施
- 3月 事業報告会

## 🌸 応募も学び!!

公開プレゼンテーション審査

応募団体の中から書類審査を通過した団体が、選考委員や一般来場者の前でそれぞれの取組をプレゼンテーションします。平成26年度は27件の応募のうち、書類審査を通過した21件がプレゼンテーション審査に臨みました。

各団体、工夫を凝らしたプレゼンテーションで取組をアピール。選考委員から厳しい質問が飛びこともありますが、どの団体もしっかりと準備を重ねてきた成果を存分に発揮します。また、連携する地域の皆さんも応援にかけつけていただきました!



## 🌸 さあいよいよスタートだ!!

認定式・講評



認定式終了後には、選考委員から、採択団体それぞれに対して講評とアドバイスが行われ、各団体真摯に聞いていました。

採択された事業について、門川大作京都市長や選考委員同席のもと、認定式を開催。市長から認定証を交付し、各団体が取組に向けた決意を表明。地域活性化に向け、力強くスタートを切ります。



事業実施

## 🌸 学びの本番!!

採択された16団体が地域のみなさんとともに活動開始!! 詳細は各事業のページを御覧ください!!

	NO.	事業名	団体名	ページ
認定事業	1	ふしみ・ふかくさコミュニティアークライブ	ふしみ・ふかくさコミュニティアークライブプロジェクト	3
	2	音もだち大作戦! ~0歳からの音楽ワークショップ~	京都市立芸大生有志によるニコニコファミリーコンサート実行委員会	4
	3	梅津学区ひとつなぎ大作戦 ~住み手と町をつなぎ町と学区をつなぐ~	梅津自治会連合会 (担当: 梅津まちづくり委員会) + 立命館大学乾ゼミ	5
	4	地域の魅力的な生活文化空間発見 X 茶の湯のもてなし発信プロジェクト	花園大学茶道部和敬會 有志	6
	5	嵐山アートプロジェクト	京都嵯峨芸術大学芸術学部デザイン学科観光デザイン系	7
	6	京北宇津ふれあい学びあい	京都精華大学 京北宇津ささし会	8
	7	都ライト'14	都ライト実行委員会	9
	8	たがやせ、キャンパス! @深草町家	特定非営利活動法人深草・龍谷町家コミュニティ (学生団体京まちや七彩コミュニティ)	10
	9	京都三条会商店街寺子屋事業	京都光華女子大学 光華三条ガールズ	11
	10	嵐山と桂川を“いかだ”でつなぐプロジェクト2014	京都大学環境デザイン学研究室「嵐山景観きりこみ隊」	12
	11	地域と大学の共生プロジェクト	京都経済短期大学・地域と大学の共生プロジェクト	13
	12	人をつなげる豊園縁側プロジェクト	人をつなげる豊園縁側プロジェクト実行委員会	14
	13	なんやかんや! 大原野 魅力発信プロジェクト	なんやかんや大原野	15
	14	女子大生の考える鹿肉普及活動	京*しかミーツ	16
	15	記憶と記録のことおこし~陶器人形の復活~	京都造形芸術大学近代産業遺産アート再生プロジェクト「まが通Ⅱ」	17
奨励事業*	16	京都銭湯芸術祭	京都銭湯芸術祭実行委員会	18

\*採択審査においては次点となったが、学生と地域の連携深化を期待できる事業とし、その取組を奨励するもの

事業報告会・意見交換会

## 🌸 学びを総括!!



報告会終了後には、一般来場者も交えた意見交換会を行いました。取組に対する質問から、アイデア提案など活発な意見交換となりました。

学生が、地域の方と共に取り組んだ成果を選考委員や一般来場者の前で発表します。平成25年度からは、最も優れている取組を行った団体を1団体選び表彰しています。様々な課題に直面しつつ取り組んだ成果は、学生にとっても地域にとっても大きな財産となり、今後の活動にいきることでしよう。



## ① ふしみ・ふかくさコミュニティアーカイブ（龍谷大学）

伏見区

### ふしみ・ふかくさ コミュニティアーカイブ プロジェクト

龍谷大学政策学部コミュニティメディアのゼミ学生が、NPO 法人記録と表現とメディアのための組織 remo の支援を受け、昭和の町並みや庶民の生活が記録された 8 ミリフィルムを、収集・デジタル化・公開し、その活用方法を検討する。

#### 《実施団体の紹介》



深草商店街は映像収集拠点・上映公開の場があり、収集の呼びかけ協力を、  
深草学区 うずらの会は上映会参加の呼びかけを、  
NPO 法人 remo は 8 ミリ収集と上映の技術的協力を、  
ホームムービーの日 in 京都は 8 ミリ収集上映の交流を、  
京都コミュニティ放送は報告番組放送の機会をいただいた。

### 事業について

#### 目的

学生が主体となって、昭和の町並みや暮らしが市井の視点から記録された資料（特に劣化・散逸の危機に直面している「8 ミリフィルム」）を、郷土資料として収集・デジタル化・公開するとともに、その活用方法を検討する。

#### 活動内容

8 ミリフィルムが個人の生活の記録であるため、活動にご理解いただけるよう、地域の行事にできるだけ参加し、交流を深めた。また、呼びかけチラシを作成し、ポスティングや商店街で手渡しで配布したほか、別プロジェクト『町家シネマ』において、映像を題材にしたおしゃべりの場を設け、8 ミリフィルムの所有者とコンタクトを取れるよう工夫した。依頼する際は、ご家庭を訪問し、持参した映写機で映像を試写した。収集した映像は、「町家シネマ」と合同で開催した上映会で公開した。

#### 成果

##### <地域にとって>

地域ではヨソモノである学生がプライベートな生活記録映像を通して地域住民の親密圏に参入したことで、特に高齢の住民の方々が、8 ミリ映像上映の空間で学生から引き出される語りや茶菓のもてなしを楽しみ、異世代交流を通じて相互理解を深めた。

##### <学生にとって>

8 ミリフィルムに撮影・記録されたホームムービーの収集や所有者のご自宅での家庭内試写を通じて、昭和時代に営まれた家族内の触れ合いを目近にさせていただき、また、地域の上映会を通じて地域住民、特に高齢者の方々の暮らしの思い出を共有し、市井の歴史を振り返ることができた。

### 学生・地域の声

学生たちがうちに遊びに来てくれ、個人的な映像なのに学べると言ってくれてうれしい。人様に見せるようなものではないと思っていたのに皆さんに楽しんでもらえた。

映写機も無く（製造されていない）、しまってた古い思い出の映像を学生さんたちと見ることができ、住んでいる地域を若い人たちの目で見つめ直してもらえた。



## ② 音もだち大作戦！ ～0歳からの音楽ワークショップ～（京都市立芸術大学）

下京区

### 京都市立芸大生有志による ニコニコファミリー コンサート実行委員会

2013年、京都市立芸術大学の学生有志によって立ち上げられた団体。親子を対象とした演奏会づくりを中心に、幼稚園等への訪問演奏、音楽ワークショップといった活動を行っている。

#### 《実施団体の紹介》



京都市の『つどいの広場』事業に基づいて開設された施設。「子育て中の親の負担感の緩和を図り、安心して子育てができる環境を整備する」ことを目標に、0～3歳の児童とその親が気軽に集まれる場所を提供している。

### 事業について

#### 目的

現在、保育施設の少なさや社会的な交流の減少により、小さな子供をもつ親は孤立し、子育ての悩みやストレスを一人で抱え込みがちな状況にあるという。そこで親、子どもと一緒に参加できる音楽ワークショップや演奏会を行うことで、親たちがくつろぎ、他の親子と繋がりが合えるような場を提供したいと考えた。

#### 活動内容

基本的に月に1度のペースで見学をかねて施設を訪問、15分程度の音楽を用いたレクリエーションを実施した。またそれとは別に音楽をテーマとした1時間程度の大きなワークショップ（「楽器づくりワークショップ」、「うたづくりワークショップ」）を2度実施。その他、「夏祭り」、「運動会」といった当施設のイベントに参加、演奏会やレクリエーションを行った。



#### 成果

##### <学生にとって>

ただ単にコンサートを行うだけでなく、小さな子供や保護者の方と一緒に参加できるイベントを考えることで、親子の生の声を聞き、子どもの反応を身近に見られる、貴重な体験ができた。

##### <地域にとって>

小さな子どもを持つ親子が気軽に音楽と触れ合える場所を地域の中に提供でき、また、観客参加型のレクリエーションやワークショップを行うことで、音楽の楽しさを身近に感じてもらうことができた。



### 学生・地域の声

子どもがどんな音楽が好きなのか、どうすれば親子が参加できるプログラムを作れるのか、色々なことを学べた。

まだコンサート等に連れて行けないような小さな子どもを本格的な音楽に触れさせる、いい機会になった。



3 梅津学区ひとつなぎ大作戦  
～住み手と町をつなぎ町と学区をつなぐ～ (立命館大学)

右京区

《実施団体の紹介》

梅津自治会連合会  
(担当：梅津まちづくり委員会)

1947年に発足し、梅津学区全25自治会、役員数15名によって構成されている。2か月に1回、役員会と定例会を開催している。自治連合会の中に位置するまちづくり委員会は、より住民の声を反映するために結成され、今年で15年を迎えた。



立命館大学 乾ゼミ

立命館大学産業社会学部のゼミ活動であり、フィールドワークによって地域活動について学んでいる。梅津学区においても、まちづくり委員会の活動(有栖川川遊びや冬祭り)を中心に社会福祉協議会と女性会、おやじの会などの活動にも参加している。

事業について

目的

自治会加入率が高い梅津学区において、自治連と乾ゼミが町単位での住民のまきこみを支援する。とりわけ、新しく住宅や団地が建設された町から取り組みをはじめ。また、それらをモデルケースとし、他の町でも活かしていく。



活動内容

- ・自治連役員会において自治会加入率を向上させる活動をよびかけた。
- ・上記の呼びかけに呼応した2町(60戸の新規分譲住宅建築が進むI町、マンション・戸建団地で新しく構成されたH町)をモデルケースとし、地域活動を伝えるパンフレットの作成や住民交流会を開催している。(H町ではもちつき大会、I町では「ようこそI町」と題して、二度にわたって懇親会を行った。)

成果

<学生にとって>

学生は、入居者の新しい世代や子供たちと既存団体構成員をつなぐ役割、既存団体の活動を活性化する役割、パンフレット作成をサポートする役割を果たすことで、地域において新しい動きをすることの大切さや、自治会活動の必要性を学ぶことができた。

<地域にとって>

- ・この取り組みの過程でI町、H町の自治会長や役員の活動が活発化した。
- ・自治連としても、次年度に続くような取り組みがはじまっている。
- ・自治連として各自治会をリードしていくという体制ができてきている。

学生・地域の声

皆さんの協力もあり、ここまで順調に運営することができた。今後も全所帯が参加する自治会を目標にがんばっていきたいと思う。(地域)

町のために一生懸命な自治会連合会や各自治会役員さん、協力して下さった団体の方、みなさんの梅津に対する熱い思いを感じた。(学生)



4 地域の魅力的な生活文化空間発見  
× 茶の湯のもてなし発信プロジェクト (花園大学)

東山区

《実施団体の紹介》

花園大学茶道部  
和敬會 有志

形にとらわれた“茶道”ではなく形式にとられない“お茶”そのものを楽しみたい、もてなすことが主の“茶の湯”を愛する集まりとして、花園大学茶道部和敬會の有志が集った。



白川を創る会

琵琶湖疏水から華頂通りにかけて流れる白川や、東山山麓の旧東海道など、岡崎から粟田学区にかけての地域の自然資源を活用したまちづくり活動をしている。



事業について

目的

歴史と自然環境豊かな粟田地域の中で、地域の歴史や自然と共生している生活文化を発見・発信すること、特に粟田地域の住民の方々で課題としている地域の東西のつながりづくりや粟田口の散策路づくりの活動と連携して、粟田地域に散在する魅力的な場を地域で共有することを目的としている。

活動内容

- ・地域の人の話を伺いつつ、茶の湯の席のカタチを考えるワークショップや、魅力的な場所を探すまちあるきを行うことで、地域の特徴をとらえた茶席を考えた。
- ・発見した地域の魅力的な場所で、その特徴を活かした茶席を作成し、茶の湯のもてなしを通して、その場所の魅力を共有した。
- ・発見した地域の魅力的な場所でお茶会を催し、地域の方と一緒にその場所を活用する可能性を話し合った。



成果

<学生にとって>

今まで僕たちのしてきたお茶というものは、既存のスペース(お茶室)といったある程度の枠の中でのお茶が一般的であったが、今回は地域の魅力的な場所を発見し、そこをよりよい魅力的な場所へとお茶の力で変えていくために、地域の人のその場所への思いなどをよく聞き、川にかかる枝などをお茶室の入り口に見立てるなど、本来の自然を活用したお茶ができた。これは、地域の人たちの意見があったからこそであり、大変貴重な経験となった。

<地域にとって>

地域活動への参加者の幅が広がることで、住民のモチベーションが上がった。また、地域で別途進んでいた散策マップ作りにも、今回の事業に関わった学生の意見を取り入れて進めることができています。

学生・地域の声

普段何の気なしに通っている道もちょっとした茶の湯の見方などで全く違った場所のように見えてとても新鮮だった。むとつむとつ自然を茶の湯に絡めたことでそのお茶室も引き立つなと思った。(学生)

私たちがとは違う見方で地域を「面白い」と思っている学生さん達と作業するのが新鮮でした。(地域)



## 5 嵐山アートプロジェクト（京都嵯峨芸術大学）

右京区

### 京都嵯峨芸術大学 芸術学部デザイン学科 観光デザイン系

観光デザインゼミ2回生が、「観光デザインとは」という視点からより良い地域社会につながるデザインを考え、広めている。

地域やまちのフィールドに出て調査し、自分の感じた思いを形にするためのデザインを描く。

#### 《実施団体の紹介》



京福電気鉄道株式会社  
タリーズ  
コーヒージャパン株式会社  
嵯峨嵐山おもてなしビジョン  
推進協議会  
京都嵯峨芸術大学学生  
(作品提供)

#### 事業について

#### 目的

京都は、日常的に豊かな歴史文化資源を当然のように感じることができる。その日常空間に、若い学生の芸術作品を重ねて、新鮮な非日常の驚きを演出することによって、京都が絶えず芸術を育むまちであり、そこに芸術を学ぶ学生が居ることを実感する、という目的のもと実施した。

#### 活動内容

京福電鉄と協力し、嵐電嵐山駅構内を中心に「駅を美術館に」というコンセプトに基づき、本学生による油画・日本画作品を留め置き電車内に展示した「ミュージアム電車」、通常運転している電車内に嵐電沿線の駅を擬人化したコミックアート分野の作品を展示した「コミックアート電車」をはじめ、嵐電嵐山駅構内にて染織作品、彫刻作品の展示した。また、タリーズコーヒー内にて版画作品を展示し、玄関にはオリジナルの暖簾をかけた。さらには、体験型イベントとして来場者をモデルとしたクロッキーを行う「クロッキーイベント」も開催した。

#### 成果

##### <学生にとって>

一部に課題を残したものの、学内の他領域の考え方や作品がもつ力はもとより、社会での実現のためのコミュニケーションのあり方、事業運営のための時間概念とスケジュール管理、問題への対処のあり方など、貴重な学習の機会を得る事ができ、大きく成長することができた。

##### <地域にとって>

観光地というフィールドにアートという要素を加え、非日常空間を演出することにより、訪れた人々に驚きや楽しみを提供できたように思う。広告ではなく絵を展示することで和やかな雰囲気を出された。観光客のみならず、地域の人々にも楽しんでもらえた。



学生・地域の声

暑かったけど、凄く楽しかった。  
たくさんの人に描いてもらえて、  
驚きの体験だった。  
(クロッキーイベント参加者)

思ったよりもジャックされていて、  
楽しかった。  
車両の窓越しに見るのが新鮮だった！  
(京福電気鉄道（嵐電）社員)

## 6 京北宇津ふれあい学びあい（京都精華大学）

右京区

### 京都精華大学 京北宇津宝さがし会

京都市右京区京北宇津地域の宝（自然、人、技術、伝統、歴史など）さがしや問題点の整理、地域と大学の交流イベントなどを通じた地域の活性化をめざす活動を行う大学サークルである。

#### 《実施団体の紹介》



協働！  
宇津自治会  
京都市右京区京北の宇津地域の自治会。宇津地域に関する情報や施設の提供、協働作業への参画、イベント広報や告知支援、また、地域住民への情報提供などの協力を行っている。

#### 事業について

#### 目的

宇津地域は豊かな自然と歴史に恵まれながら過疎化が進んでいる状態にある。地域住民からは居住者では気づかない新たな発見や価値を発掘し、発信することやイベント開催の要望も強くある。このことから、宇津地域の活性化と学生の豊かな学びの育成を目的としている。

#### 活動内容

宇津の文化・歴史・ライフスタイルに関するヒアリングを通じて、地域に関する理解を深めた。それらの情報を活かし、地域の人たちのニーズも受けて、宇津の紹介地図やホームページを作成し、情報の発信を行った。また、夏祭りでのフラメンコ同好会によるパフォーマンスや子どもフラメンコ教室の実施、大型紙芝居の上演、地域の子どもたちを対象にした自然観察教室や唐臼を使った餅つきなどの地域と学生との交流イベントを行った。

#### 成果

##### <学生にとって>

市街に比べて交通や買い物の不便な地域に宿泊することで「既存のものからさらに何を生み出せるか」という視点を養えた。宇津に限らず過疎化地域がいかに活性化するか、これからの学生生活で考えるテーマを得た。

##### <地域にとって>

“過疎”という暗く後ろ向きな言葉からの脱却をはかり、「活気ある田舎」を目指して取組む宇津地域。ワカ者・ヨソ者の感性に直に触れることでウチ者が見落としている宝物を掘り出していくことが最大の目的だと考えている。



学生・地域の声

ネットを効果的に利用する方法の提案や大学生の斬新な目で地域マップ等の企画をアドバイスいただきたい。(地域)

宇津地域のことを活動を通してたくさんの人に知ってもらうことができた。地域の人から教わったことを発信していきたい。(学生)

《実施団体の紹介》

都ライト実行委員会

都ライト実行委員会は、京都の大学に通う学生を中心に、社会人スタッフと共に運営している。ANEWAL Galleryという町家を改修したギャラリーを拠点に、毎年代替わりしながら活動を続け、本開催で10回目となる。



大黒町町内会

イベント開催に関して協賛金をいただいたり、夏の地蔵盆など町内会のイベントに参加させてもらい、イベントに関するアドバイスなどをいただいた。



事業について



目的

町家のライトアップを通じて、町家の保全と町や地域に興味を持ってもらうことを目的としている。年々減っていく日本独自の建造物である町家や町並みを歩き、見ることによって、地元の人々や来場者に町家の魅力や暮らし、古くからの京都の伝統、地域の繋がりについて考えてもらうきっかけづくりを目指す。

活動内容

何年にもわたって開催してきた上京区だけでなく、他の地域の町家もライトアップしたい。その第一歩として「京まちや七彩コミュニティ」の方々とコラボし、龍谷大学町家キャンパスでのイベント

を開催した。また、上京区での「都ライト'14」のイベントでは、来場していただきやすくなるよう照明の充実を図り、当日のボランティアスタッフを増やした。併設イベントでは、町家の中に入って行うイベントを増やし、町家により触れてもらう機会をつくった。

成果

＜学生にとって＞

京都や町家に対する知識、人と人との繋がり、モノの見方が広がり、学生として大学で学ぶ以上のものを得られた。また地域の方々と深く関わり合せて、普段から挨拶を交わすような関係になることができた。

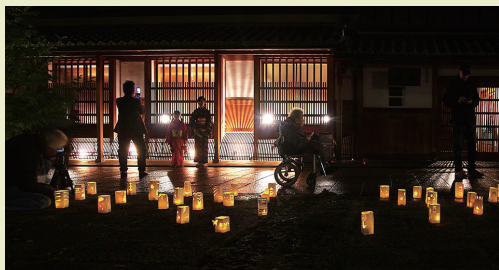
＜地域にとって＞

イベントに関して地域と学生とが直接話し合いを重ねる中で、地域からの自発的な提案やニーズを拾うことができ、受身ではなく自分たちのまちのイベントであるという意識が生まれつつあると伺える。

夜になれば人影もまばらで静かな町内だが、若い人たちが家の明かりに誘われそぞろ歩く姿にほのぼのとしたものを感じた。

学生・地域の声

自分自身が町家の風情、魅力を改めて感じる事ができ、さらに一般の方に存在を認知していただくことができた。



《実施団体の紹介》

特定非常利活動法人  
深草・龍谷町家コミュニティ  
(京まちや七彩コミュニティ)

学生団体「京まちや七彩コミュニティ」は、龍谷大学が深草地域の住民や地域団体と学生・教職員とが交流し、地域課題に取り組み活動拠点として開設した「龍谷大学深草町家キャンパス」の学生企画組織である。



農業体験石割塾  
北加賀屋みんなのうえん  
ソラノネ食堂  
弁当塾  
室町子どもクッキング  
深草小学校  
砂川小学校  
聖母学院幼稚園・小学校  
深草幼稚園  
ふかくさ輝っず児童館  
都ライト実行委員会

事業について

目的

都市コミュニティでの食育、農や緑に対するニーズを模索した。龍谷大学と周辺住民との合同ワークショップ開催で得た「居場所/憩いの場/公園が少ない」という結果を踏まえ、「まちやこうえん計画」の創造を目的に掲げた。人が繋がる場をつくり、京都の伝統野菜栽培を通して交流し、町家の特色を活かし、井戸や竈を用いた農ある暮らしの体験や伝統継承を意識した。

活動内容

①「夏・秋の収穫調理祭」(8/5, 12/6)、②室町子どもクッキング×弁当塾とのトリプルコラボで「町家子どもクッキング」(2/14)、③「冬の収穫祭調理祭うどんづくり」(3/7)、④「ものづくり教室」の竹プランターづくり(3/14)、⑤「春のイチゴプランター大作戦！」(3/28)など、親子と学生による「第0回こうえんミーティング」を実施した。(※2月以降は開催予定。) その他、都ライトとのコラボ(9/6)や、龍谷大学深草町家キャンパスと共催イベント(10/8, 11/24, 1/31)に参画し、親子と接する機会を築いてきた。

成果

＜学生にとって＞

事業をリードしてきた上級生だけでなく下級生が「無」から「有」を創り出す能力を発揮し始めている。また、活動だけでなく、活動を通して知恵が足りない場合、図書を手にとり能動的に勉強会を行い、活動と学問を連動させ、実践と理論を横断している学びの姿がある。

＜地域にとって＞

既存の地縁組織が包摂しづらい「子育て世代コミュニティ」の創生に着目して事業活動を続けた。秋の収穫祭で「学生×親子×公園」の関係性ができ、「春のイチゴプランター大作戦！」から親子と事業を始め、「まちやこうえん計画」へ共に参画し、更なる事業拡大を目指す。

学生・地域の声

都会に住んでいると、土に触れる機会がないので、親子で参加できて本当に嬉しかった！！

夏祭や学祭に親子と学生で一緒に行く関係になったのは初めて！地域の仲間として本気でお付き合いしています！

普段、家では食べない野菜も自らすすんで食べてくれました！収穫体験がそうさせてくれたと思います。



《実施団体の紹介》

京都光華女子大学  
光華三条ガールズ

京都光華女子大学学生が中心となり、三条会商店街の一角にある「三条会寺子屋」を拠点に、「寺子屋秋の縁日」など、家族で参加できる学びの場として親子参加型イベントを試行。これらを通して、三条会商店街の現状把握と地域住民との交流を行っている。



三条会商店街

三条会商店街はファミリー層が集う商店街を目指し、7月は「七夕夜市」や8月は「屋台村」など、ファミリー向けのイベントを多く開催している。

事業について

目的

三条会商店街が目指す「ファミリーが集う商店街」になるために流入してきたファミリーへの働きかけや季節のイベントに合わせた家族で参加できる学びの場をつくり、交流の場を提供することを目的としている。

活動内容

交流の場として、寺子屋での活動を定期的に行ってきた。例えば7月の商店街イベントである「七夕夜市」に合わせたピクチャー作成や女の子に向けたヘアセット、秋の縁日と称し、商店街のお店とタイアップしてイベントを開催した。



成果

＜学生にとって＞

地域住民の方との交流を通して、地域にどのような貢献ができるか、課題は何かということを話し合い、活動を行ったことで、三条会商店街に新たなコミュニティを作ることができ、貢献することができた。

＜地域にとって＞

商店街とタイアップしたイベントの開催により、商店街のお店に足を運んでもらえる機会をつくり、住民と商店街の繋がりを作ることができた。

学生・地域の声



秋の縁日で自分が子供のころの遊びを自分の子供とすることができて楽しかった。

寺子屋事業に限らず、京都の地域で活動している学生団体に興味を持ってもらうことができた。



《実施団体の紹介》

京都大学  
環境デザイン学研究室  
「嵐山景観きりこみ隊」

京都大学農学部環境デザイン学研究室において、嵐山景観が現在抱えている問題やその将来に対し関心を持ち、ふさわしいあり方を模索・実現する一助となりたいと考えるメンバーで結成。



嵐山保勝会

地元のお寺の方、観光業を生業とする地域の方が幅広く参加され、嵐山地域の観光全般を担っている。

嵯峨野高校生

をはじめとした小中高生、海外からの留学生  
地域景観に関心をもつ学生が参加。

事業について

目的

嵐山の里山的利用の減退などを理由として、近年美しい山川の姿は大きく変化しつつある。また、かつて存在した「いかだ流し」などの文化的営みは、現在ではもう見られない。本事業では、幅広い年代の嵐山地域の人々と共に、嵐山の伝統的文化に対する理解を深め、嵐山地域の伝統的文化の地域貢献への可能性の模索を通して、「山・川・人のつながり」の回復を目指していく。

活動内容

(1) 嵐山いかだ流しイベント

伝統的手法のいかだ流しを再現した。渡月橋付近において、嵐山保勝会の全面バックアップのもと、嵐山通船に場所を提供いただき、京筏組のいかだ師さんのご指導を仰ぎながら、小中高生、留学生まで、総勢100人弱程度でいかだ作成、試乗体験をし、地域の伝統文化を再考するきっかけとした。

(2) 流域治水勉強会

京都大学景観設計学研究室・環境デザイン学研究室、東京大学地域デザイン研究室、嵐山関係者の方々が一堂に会し、嵐山景観に関する勉強会を実施した。嵐山での現地見学、各研究室からの話題提供などを通して、嵐山景観に関する考察を深めた。



成果

＜学生にとって＞

地域景観の今後の維持を考えるにあたって、専門家の独りよがりな判断ではなく、地域住民との十分な議論、共通認識のもとに方向性を決めていく必要があると感じた。

＜地域にとって＞

京大の学生が、嵐山・亀岡双方の人たちを巻き込んでいかだ流しを実施することで、今までとは一味違った流域の上下流間における繋がりができつつあると感じる。（特定非営利活動法人プロジェクト保津川 理事 早田和仙氏）



文化を繋ぎ紡いでいくのはいつの時代も若い力です。若い力が伝統ある嵐山に新たな風を吹き込んだ素敵なイベントでしたね。  
（保津川遊船企業組合 船士 河原林洋氏）

学生・地域の声

人の繋がりができつつある流れを確実にするためにも、少なくともあと数年テーマを深化しつつ続けて欲しい。  
（特定非営利活動法人プロジェクト保津川 理事 早田和仙氏）

## 11 地域と大学の共生プロジェクト（京都経済短期大学）

西京区

### 京都経済短期大学 ・地域と大学の共生 プロジェクト

京都市西京区・洛西ニュータウンにおいて、高齢者の「居場所づくり」や人と人との「繋がりがづくり」を目的とした活動を展開する学生グループ（＝京都経済短期大学の「プロジェクト演習」という科目の受講生）

《実施団体の紹介》



### NPO 法人 洛西福祉ネットワーク

高齢化が進む洛西ニュータウンで地域住民の「居場所づくり」や人と人との「繋がりがづくり」を行うNPO法人。活動拠点である「わくわくサロン」は、地域の「居場所」として多くの方々に親しまれている。

### 事業について

#### 目的

急速な高齢化が進む「洛西ニュータウン」では独居高齢者が増えており、そのような方々の「居場所づくり」や「繋がりがづくり」が求められている。本事業の目的は、京都経済短大の学生が同地域で活動するNPO法人・洛西福祉ネットワークとコラボしながら高齢者の方々の居場所や繋がりがづくりの場を創出すること。



#### 活動内容

本事業では、主として三つの事業に取り組んだ。一つ目は「昼食を楽しむ会」。毎週金曜日のお昼に学生が「わくわくサロン」にお弁当を配達し、高齢者の方々と一緒に食事を楽しむ企画。二つ目は「中国語教室」。毎週火曜日の午後、留学生が地域住民の方々に中国語を教えることで、「学び」を通じた異文化交流や繋がりがづくりができた。三つ目は「わくわくサロンセミナー」。高齢者の方々の声を元にテーマを設定し、隔月でセミナーを開催。NPOスタッフと学生が一緒になって企画・運営を行った。

#### <学生にとって>

#### 成果

今後の日本社会では高齢者のニーズに対応したサービスが求められているが、具体的なニーズを理解している若者は少ない。本事業に参加したことで、そのようなニーズに気付くとともに、地域の絆の重要性を理解することができた。

#### <地域にとって>

「わくわくサロン」での活動に「若い学生」が参加したことで、地域の方々から「元気がもたらえた」、「地域が明るくなった」との言葉をいただいている。高齢化社会の「繋がりがづくり」には、「世代を超えた繋がりが」が必要であると分かった。

一人だと何を食べても美味しくないが、みんなで食べると、何を食べても美味しく感じる。みんなでおいしいご飯を食べられるので、いつも楽しみにしている。

学生・地域の声

自分よりも年下の学生さんたちとの会話は新鮮で、老化の防止にもなって良い。出会いの場にもなるので、とてもおもしろい。



## 12 人をつなげる豊園縁側プロジェクト（龍谷大学）

下京区

### 人をつなげる 豊園縁側プロジェクト 実行委員会

龍谷大学経済学部の学生からなるグループで、マンション住民の地域離れやまちづくりの新たな担い手不足といった地域の課題に対し、マンション住民らを魅了する新しいイベントを企画・開催している。

《実施団体の紹介》



### 豊園自治連合会

町内会や女性会、年寿クラブなどで構成され、防犯・防災活動や親睦イベントなどを行っている。

### 下京区社会福祉協議会

公的な位置づけを持つ民間団体で、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを掲げている。

### 事業について

#### 目的

下京区は市内で3番目に高齢化率が高い。他方、豊園学区では、マンションに住む若い世代が増え、世代間交流の希薄さが大きな課題となっている。このため、(1) 地域や地域活動の魅力を若い世代に発信する (2) 彼らが参加しやすくなる地域イベントを企画する (3) こうした活動を通じて世代間交流を促進する、以上3つの目的を掲げた。



#### 活動内容

2014年12月に、独自企画の写真展を開催した。「下京区の魅力を感じさせる1枚」というテーマで一般公募した写真や住民から提供された昔懐かしい写真を展示するとともに、豊園学区の歴史や文化、伝統職人の技などをパネルにまとめた。2015年1月には「今後の地域イベントを考える」というテーマでワークショップも実施した。このほか、豊園学区で開催されてきた既存の地域イベント（さくらまつり、祇園祭など）にスタッフとして参加した。

#### 成果

#### <学生にとって>

写真展やワークショップなどのイベントを主催したことで地域運営の大変さを実感できた。また、まちづくりにおいて若い担い手が必要とされていることを知り、積極的に地域に関わることの重要性を学んだ。

#### <地域にとって>

学生が地域イベントを手伝ってくれたおかげで、地域に活力が生まれた。自治連合会のスタッフのほとんどが60歳以上で、体力面などに限界もあるので助かった。若者ならではの斬新なイベント提案や意見交換も有意義だった。（豊園自治連合会会長 西脇博士氏）

#### 学生・地域の声

地域の人々が快く学生を受け入れてくれたので、普段できない体験ができた。とても良い経験となった。

地域イベントの準備や運営をしていくにあたりどうしても力仕事が必要になる。だから、若い力はとても助かった。





13 なんやかんや！大原野  
魅力発信プロジェクト（京都市立芸術大学）

西京区

《実施団体の紹介》

なんやかんや大原野

農業を核として大原野地域を元気にしようと集まった農家有志グループであり、地域資源等を生かした都市・農村交流活動や新たな特産品づくりを目指す取組を行っている。



京都市立芸術大学美術学部  
ビジュアルデザイン研究室

大原野地域の魅力を発信するために、「なんやかんや大原野」のロゴマーク作成や地域PRイベント開催に協力している。

京都府立桂高校山中班

ひまわりの苗づくり等を通じて、地域のPRイベントに参加している。

事業について

目的

大原野地域は、市街地に隣接する京都市内最大級の農業地域であるが、農家の高齢化や後継者の不足が課題となっている。地域の基幹産業である農業が元気になれば、地域の活性化につながるのと思いから、豊かな田園風景等の地域資源を生かし、「大原野」の魅力を地域内外にPRすることを目指している。

活動内容

休耕田を活用したひまわりイベントに関して、なんやかんや大原野メンバー・京都市立芸大の学生・桂高校の生徒が、取組内容を検討し役割分担のうえ、協力して実施した。

また、大原野地域のイベントにおいて、農産物を活用したアートを展示した。さらには、地域ブランドの確立に向けて、農産物・農産加工品のパッケージデザインを検討、制作した。

成果

＜学生にとって＞

本事業を通じて、普段の生活ではつながることがない農家さんと話ができること自体が貴重な体験であり、学生のアイデアを取り入れてもらえる自分たちの達成感にもつながり、地域の方々の大原野をPRしたいという思いにも協力できたのではないかと感じた。

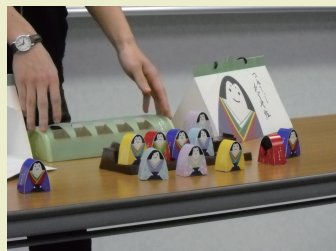
＜地域にとって＞

多数の方々に「ひまわり畑」を見に来ていただき、大原野地域の魅力を広く発信することができたと実感している。また、京都市立芸大の学生さんがデザインした「なんやかんや大原野」のロゴマークを野菜の出荷箱に表示するなど、新たな展開が広がりがつつあり、若い学生さんが一緒に活動してくれることが地域の者にとっては励みになっている。

学生・地域の声

地域の農家さんだけでなく、様々な人と接する機会があり、机の上だけでは決して得ることのできない経験ができた。

孫のような若い学生さんと地域の加工食品について話をする機会があったが、若者のユニークな視点に接することができて、大変刺激を受けた。



14 女子大生の考える鹿肉普及活動（京都光華女子大学）

右京区

《実施団体の紹介》

京＊しがミーツ

京都光華女子大学短期大学部ライフデザイン学科の食分野に興味のある学生が集い、環境保護や農作物の被害減少をめざして「おいかレシピ」を考案！



観光農園江和ランド

美山町で宿泊施設や貸し農園を運営しており、専用解体処理施設で鹿肉を提供。環境問題にも取り組んでおり、フィールドワークやセミナーにも協力。

事業について

目的

右京区北町は鹿による森林や農作物の被害が深刻化している。鹿肉の利活用や普及活動を支援するため、現在右京区もみじプロジェクトが進行中である。私たち女子大生のかでおいしい鹿肉料理を開発し、環境問題の啓発も合わせて広く一般に普及させていくことを目指した。

活動内容

月に一度の鹿肉料理試作会で検討した料理や、鹿の角を使ったわなげゲームを考案して地域のお祭りへ参加し、鹿肉普及活動に努めた。環境被害の現状を知るため、猟師の話聞きながらの現地調査や勉強会を開催するほか、学生環境サミットではパネル発表をして広報活動を行った。また、セミナーや料理教室のイベントを催して地域の方に鹿肉料理を味わってもらい、野生鳥獣害の環境への影響を考慮もろうきかけづくりをした。

成果

＜学生にとって＞

学んだことを伝え、人と関わる楽しさや喜びを実感することでモチベーションが高まり、自信がついた。鹿肉料理や環境について、もっと勉強してたくさんの人に伝えたいという意欲がわいた。

＜地域にとって＞

鹿肉料理を味わってもらうことで、鹿肉のイメージがよくなった。環境セミナー開催で地元の取り組みや環境問題に興味をもってもらえた。もっと知りたいとの声も非常に多く、地域住民と協働する意義を感じた。

学生・地域の声

鹿肉はとてもおいしかったです。市場の流通を目標に、これからも鹿肉の普及をぜひがんばってほしいです！

地域の人に喜んでもらえるとうれいを感じ、自信が付き絆も深まった。活動を継続し、自然と動物・人間が住みよい環境づくりをしたい。



## 15 記憶と記録のことおこし～陶器人形の復活～ (京都造形芸術大学)

東山区

### 京都造形芸術大学 近代産業遺産アート再生 プロジェクト「まか通Ⅷ」

東山区にある六原というまちを中心にイベントやワークショップを開催し、年間を通したテーマに沿い時間をかけながら参加者にまちへの愛情を深めてもらえるよう、芸術における地域活性化を目指し日々活動している。

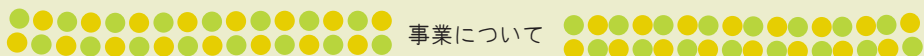
#### 《実施団体の紹介》



### 五条坂陶器祭運営協議会

五条坂に店を構える陶器屋を中心とし、毎年多くの観光客で賑う京の代表的な夏の風物詩、「京都・五条坂陶器まつり」を運営している。

協力していただいた  
窯元の皆さん



#### 事業について



#### 目的

かつて五条坂陶器祭では、地域の人たちを中心に陶器で作られた人形を制作・展示していた。しかし陶器産業の衰退により50年ほど前に廃れた。今回地域の方々と復活させることで、陶器まつりの盛り上げや自分のまちの文化への深い親しみをもってもらうこと、住民間の世代を超えたコミュニティを構築することを目的として実施。

#### 活動内容

陶器祭運営協議会の方々や窯元の方々に協力をお願いし、陶器人形の材料となる陶器約2000点を収集。また、学生たちだけでなく地域の方に向けた陶器人形の制作ワークショップを複数回企画・実施。ゆくゆくは地域に住む方々が主体的に陶器人形の制作を行えるよう、学生メンバーからノウハウを伝えた。展示当日には常に学生たちが在留し、会場に来た観覧者に制作の仕方や陶器人形の説明などをすることで、作品への理解が深まるよう心がけた。

#### 成果

＜学生にとって＞  
絵画や立体、映像など様々な分野の芸術を勉強する学生たちが、失われた文化を復活させるという共通の目標に携わることで、芸術の必要性、自分たちの技術の活かす方について、深く考えるきっかけとなった。

#### ＜地域にとって＞

およそ50年ぶりの陶器人形復活により、懐かしさや新鮮さなど世代ごとに様々な感想を持たせることで、歴史ある祭に対する愛着や来年に向けた更なる期待を持ち、まちへの愛情を深める一歩となった。

#### 学生・地域の声

5年後10年後も続けていくことで、毎年来てくれる人が楽しくなっていく風になっていくといいよね。

陶器人形を復活させたい想いは強くあったから、皆にみていただく機会ができたことを喜ばしく思います。



## 16 京都銭湯芸術祭 (立命館大学・京都造形芸術大学・同志社大学)

北区

上京区

#### 《実施団体の紹介》

### 京都銭湯芸術祭実行委員会

京都の銭湯を舞台に、公募で集めた作品を営業中の銭湯に展示。初開催の今回は京都市北区、上京区の8店舗で開催した。銭湯を基点とし、地域コミュニティや社会と芸術の接点を再考する。自らも作品制作を行うメンバーによって構成される。



#### 北区：

紫野温泉・門前湯・若葉湯  
大徳寺温泉・加茂温泉

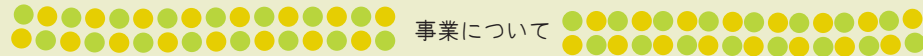
#### 上京区：

龍宮温泉・京極湯・長者湯

#### 協力：

京都府公衆浴場業  
生活衛生同業組合

Design by Yuske Akai (paragram)



#### 事業について

#### 目的

銭湯は全国的に年々減少しているが、銭湯の活用は、情報だけではなく生身で地元京都を知る機会になり、更に地域防災、防犯面への有効性など、様々な可能性を持つ。銭湯に潜む様々な要素を、アート作品という、幅広い世代に通ずる指標によって表現する事で、銭湯と芸術双方に関する意識に変化を生み出し、銭湯がある地域への貢献や、さらには暮らしの在り方について考える動きへとつなげる。

#### 活動内容

プログラム面では、銭湯を様々な角度から捉えてもらえるよう、作品の展示以外にシンポジウムやイベントなどで、建築、歴史、文化など広い分野の専門家を呼び、地域の人々に聴講してもらい機会をつくった。運営面では、アーティストや実行委員が積極的に銭湯に通うことで、銭湯に入り込み、単に作品を制作することに留まらない交流を大切にすることを心掛けた。

#### 成果

＜学生にとって＞  
元々銭湯への興味関心が強かったが、このプロジェクトで関わることで、普通では見られない銭湯の要素や、芸術が関わったからこそ表れてくる銭湯の面白さが見えてきた。京都出身ではないが、どのようにしたら地域の中で過ごしやすくなるのかということも垣間見えた。

#### ＜地域にとって＞

アーティストが銭湯と密着し作品制作を行ったことにより、銭湯経営者やお客さんにとって、作品やアーティストが身近なものとして感じられるようになり、自らお客さんに作品の解説をしたり、アーティストに対して我が子のように応援する気持ちを持つというような変化が生まれた。

#### 学生・地域の声

芸術祭を通して、展示作品の説明などをお客さんにすることがあり、若い人と話さきっかけになってよかった。(地域)

銭湯が、芸術作品の展示されるような場所になるとは思っていなかったので、驚きと可能性を感じた。(学生)



photo by Yuki Moriya

